

インターバンクの声（2016 年 4 月 12 日）

昨晩はロンドン市場が開いた頃からニューヨーク市場の序盤にかけ、ドル円は原油価格や欧米株価が堅調だったこともあって108円40銭台までのドル買いとなったが、特別強い抵抗となるような水準ではないものの結局そこから反落してしまった。確かに株価の上げ幅が縮小し始めたことも影響していたが、ドル円に限らず相場がドル安に傾いてしまっていることが根本原因だ。ユーロや豪ドルが、それぞれ1.14ドル台や0.78ドル台といった節目の水準を越えてまでドルを売り込んで行っていいかためらっており、それがどうにかドル円の下値を107円台で持ち堪えさせてくれている要因にもなっている。ドル円が単独でさらに売り込まれることは勿論、ユーロや豪ドルが新たな水準に向かって動き出せばドル円も影響を受けることになりそう。米連邦制度準備理事会（FRB）の早期利上げ観測が後退しているとの見方にも変化はなく、本格化する米企業決算の内容に減益が目立ってくるようだと益々ドルの上値が重くなりそう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。